

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人
第5学年	国語	89人	算数	89人	理科	89人

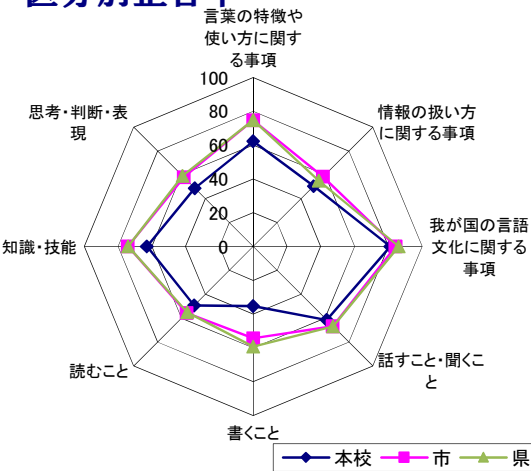
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	62.2	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	50.6	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	81.2	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	61.5	66.7	66.9
	書くこと	35.3	54.3	59.3
	読むこと	49.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	62.9	74.1	74.0
	思考・判断・表現	48.9	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

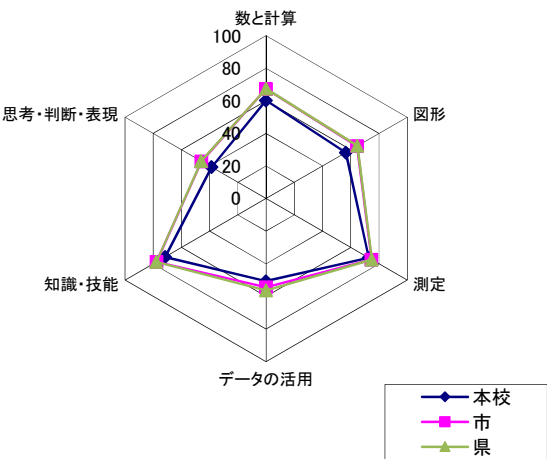
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○第3学年の漢字を読むことについての問題では9割近くの正答率で、定着していることが分かる。 ●言葉の学習については、県の正答率と比べ10ポイント以上低い。	・主語と述語なども文法について、授業だけでなく朝の学習や家庭学習などでも取り上げ、定着が図れるようにする。 ・漢字の学習については、日々の家庭学習も積み重ねも大切なので、継続して指導していく。 ・既習事項の復習を取り入れる。
情報の扱い方にに関する事項	○国語辞典の使い方については、県の正答率と比べやや下回っているが、おおむね定着している。 ●情報と情報との関係について理解し、要約する問題では、県の正答率と比べ10ポイント以上低い。	・説明文の読解において、文章の中心となる語や分を適切に探することができるよう丁寧に指導する。
我が国の言語文化にに関する事項	○漢字のへんやつくりについての問題では、8割以上の正答率で定着していることが分かる。 ●県の正答率と比べ4.9ポイント低い。	・漢字のへんやつくりについて、新出漢字練習の時に押さえるだけでなく、これまで学習した内容についても確認テストをするなどして定着を図る。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、9割以上の正答率で、聞く力が定着していることが分かる。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、意見をまとめる問題では、市の正答率よりも低く、無回答率が30.6%と高い割合となっている。	・日々の学習活動に話し合いの場面を多く設定し、意見と理由を述べることを習慣化していく。 ・友人と自分の意見の相違について考えながら話を聞くことができるよう指導していく。
書くこと	○回答できた児童の多くは6～8行で書くという条件を満たしており、回答が4つの条件全てを満たしている児童も多かった。 ●4割以上が無回答であることから、書くことへの苦手意識が高いことがわかる。 ●自分の考えとその理由について文章で表す問題について、県の正答率を27ポイント下回った。	・授業や家庭学習で作文や日記を取り入れる。また、国語だけでなく他教科でも自分の考えや分かったこと、振り返りなど文章を書く機会を多く作り、書くことへの抵抗感をなくす。 ・作文の書き方や段落構成など基本的な内容を繰り返し指導し定着を図る。
読むこと	○叙述を基に文と文のつながりを捉える問題では、県の正答率を2ポイント上回った。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に考える問題では8割以上の正答率だった。 ●叙述を基に文章の内容を捉える問題では県の正答率を8ポイント以上下回った。	・文章の内容の捉え方について、接続語に注目したり、キーワードに注目したりして短文でまとめるという基本を押さえる。 ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有する活動を授業に取り入れる。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.3	67.3	67.4
	図形	56.5	64.5	64.7
	測定	72.7	74.7	74.9
	データの活用	50.6	54.4	56.4
観点	知識・技能	71.6	77.6	77.8
	思考・判断・表現	38.7	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

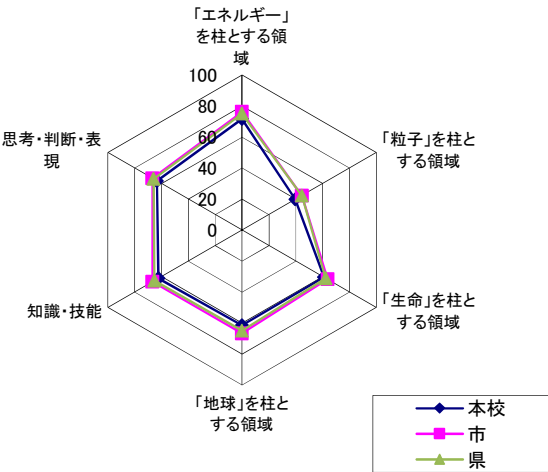
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本領域の正答率は60.3%で県の正答率を7.1ポイント下回った。 ○「分数の表す正しい大きさを答える」の正答率は61.2%で県の正答率を1.8ポイント上回った。 ○「小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ」の正答率は96.5%で、県の正答率を0.2ポイント上回った。 ●「数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える」の正答率は30.6%で県の正答率を16.1ポイント下回った。	・基礎的内容の理解と定着を図るために、授業や家庭学習で繰り返し復習できるようにする。 ・「分数は1をいくつかに分けたうちの何個分かを表す」という理解が不十分であったと思われる。分数の概念について数直線等を用いて振り返りの学習を行い、反復練習を行う。
図形	●本領域の正答率は56.5%で県の正答率を8.2ポイント下回った。 ○「円の半径と直径について正しいものを選ぶ」の正答率は80.0%でおおむね市と県の正答率と同じくらいにできている。 ●「球の半径について正しいものを選ぶ」の正答率は54.1%で県の正答率を10.6ポイント下回った。 ●「円の中心とコンパスの使い方について、正しいものを選ぶ」の正答率は43.5%で県の正答率を16.5ポイント下回った。	・計算問題だけでなく、図形などを使った様々な問題に対応できるよう、演習を重ねていく。 ・コンパスの使い方について復習をする。 ・「円」や「球」の概念をとらえさせるために、操作活動を取り入れたり、視覚的にとらえられる具体物を提示したりする。
測定	●本領域の正答率は72.7%で県の正答率を2.2ポイント下回った。 ○「はかりの目盛りを読みとり、重さを答える」の正答率は50.6%で市の正答率を0.5ポイント上回った。 ●「時間が経過する前の時刻を求める」の正答率は76.5%で県の正答率を3.8ポイント下回った。	・基礎的内容の理解と定着を図るために、授業や家庭学習で繰り返し復習できるようにする。 ・学習内容の理解を深めるため、身の回りの時刻や時間、長さについて調べたり、生活と関連付けたりした上で、文章問題などの活用問題を朝の学習などで取り入れ、さらなる定着を図る。
データの活用	●本領域の正答率は50.6%で県の正答率を5.8ポイント下回った。 ●「2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り正しいものを選ぶ」の正答率は14.1%で県の正答率を9.5ポイント下回った。	・問題に合わせた適切な棒グラフの縦軸、横軸の目盛りのとり方について確認した上で、類題を朝の学習などで積極的に取り組ませ、定着を図る。 ・授業の中でICTを活用したり、学び合いの機会を設定したりして子ども達同士の意見交換の時間を確保し、様々なグラフの読み方ができることに気付かせる。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.7	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	39.6	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	61.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	61.4	66.6	64.9
観点	知識・技能	62.4	66.8	65.4
	思考・判断・表現	63.4	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●本領域の正答率は71.7%で、市の正答率を4.5ポイント下回った。 ○「ゴールに車を止めるために必要だと推測されるゴムをのばす長さを選ぶ」の正答率は57.7%で、県の正答率を2.8ポイント上回った。 ●「鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を選ぶ」の正答率は56.5%で、県の正答率を14.0ポイント下回った。 ●「送風機を風が強い順に並べ替える」の正答率は56.5%で、県の正答率を10.0ポイント下回った。	・基本的な知識について、しっかりと理解をし、定着が図れるよう、授業や家庭学習で繰り返し復習できるようにする。 ・鉄でできたものが磁石になった方法を確認などの基本的な実験結果について、なぜそうなのかを自分の言葉で説明できるようにする。 ・金属の性質を扱った授業では、類似した実験や電気の性質と混同しないように、違いを明らかにして指導していく。
「粒子」を柱とする領域	●本領域の正答率は39.6%で、市の正答率を4.9ポイント下回った。 ○「同じ種類の木でできている積み木を答える」の正答率は80.0%で、市の正答率を1.3ポイント上回った。 ●「形を変えた粘土の重さについて正しいものを選ぶ」の正答率は32.9%で、市の正答率を11.9ポイント下回った。 ●「姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び選んだ理由を答える」の正答率は5.9%で、市の正答率を4.2ポイント下回った。	・基本的な知識について、しっかりと理解をし、定着が図れるよう、授業や家庭学習で繰り返し復習できるようにする。 ・授業中に実験をして分かったことは、自分の言葉でまとめられるように指導していく。 ・身の回りにある物を用いて実験を行い、体積を同じにしたときの重さの違いを、手ごたえなどの体感を基にしながら比較する。また、物の形や体積と重さの関係を捉えられるように指導していく。
「生命」を柱とする領域	●本領域の正答率は61.0%で、市の正答率を2.6ポイント下回った。 ○「ホウセンカのようなすを観察した順に並べ替えたものを選ぶ」の正答率は17.7%で、市の正答率を3.9ポイント上回った。 ●「正しい草丈の測り方を選ぶ」の正答率は31.8%で、市の正答率を10.2ポイント下回った。 ●「モンシロチョウが食べるえさの量を選ぶ」の正答率は49.4%で、市の正答率を17.2ポイント下回った。	・基本的な知識について、しっかりと理解し、定着を図ることができるよう、授業や家庭学習で繰り返し復習できるようにする。 ・草丈を実際に測る活動などを通して、正確に対象物を計測することができるように指導していく。 ・モンシロチョウが成長する様子を継続的に観察するなどして、モンシロチョウの成長の時期により食べるえさの量が異なることを理解できるように指導していく。
「地球」を柱とする領域	●本領域の正答率は61.4%で、市の正答率を5.2ポイント下回った。 ○「温度計の使い方を選ぶ」の正答率は75.3%で、市とほぼ同じであるが、県の正答率を3.3ポイント上回った。 ●「太陽の位置の変化を方位で答える」の正答率は35.3%で、市の正答率を10.4ポイント下回った。 ●「午後2時のかげの記録を選ぶ」の正答率は48.2%で、市の正答率を5.7ポイント下回った。	・基本的な知識について、しっかりと理解をし、定着が図れるよう、授業や家庭学習で繰り返し復習できるようにする。 ・「太陽の位置やかげの様子」では、実験を通して方位磁針の正しい使い方を身に付け、時間とともに太陽が動き、かげの動きが太陽とは反対になるということを理解させる。また、かげの動きを推測できるよう、太陽が動くとかげも動いていくことを記録を基に考えられるように指導していく。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている」という質問では、肯定割合は91.8%と市の肯定割合よりも1ポイント高い結果であった。多くの児童が集中して授業に取り組んでいることが分かる。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という質問では、肯定割合は95.3%と市の肯定割合よりも1.4ポイント高かった。授業の中でペア活動やグループ活動を積極的に取り入れることで、多くの児童に話の聞き方が身に付いていることが分かる。今後もその姿勢を高めながら学習活動を行っていききたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」という質問では、肯定割合が市の肯定割合よりも15.4ポイント低かった。また、復習していないと回答する児童が22.4%と高かった。授業の復習は学習の定着の基となるため、その日の学習をその日のうちに復習する習慣を作っていききたい。

●「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」という質問では、肯定割合が36.5%と高いが、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」という質問では、肯定割合は市の肯定割合よりも13.5ポイント低い結果となった。自ら意欲的に宿題に取り組んでいる児童が少ないことが分かる。宿題の内容を工夫しながら、児童が学ぶ意欲をもって学習に取り組むことができるような支援を行っていく必要がある。

●「自分には、よいところがあると思う」という質問では、肯定割合は市の肯定割合よりも低く、否定的な回答をする児童の割合は22.3%と市よりも2.8ポイント高い結果となった。自己肯定感をもつことができない原因を探り、児童の自己肯定感を高めていくことができるような支援を学校生活全体を通して行っていききたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」という質問では、否定的な回答をする児童が41.2%と高い結果となった。ペア活動やグループ活動を通して、自分の発言に自信をもつことができるよう、場の設定を工夫していく必要がある。また、児童への賞賛などの声掛けにより、児童が自信をもって過ごすことができるようにしていききたい。

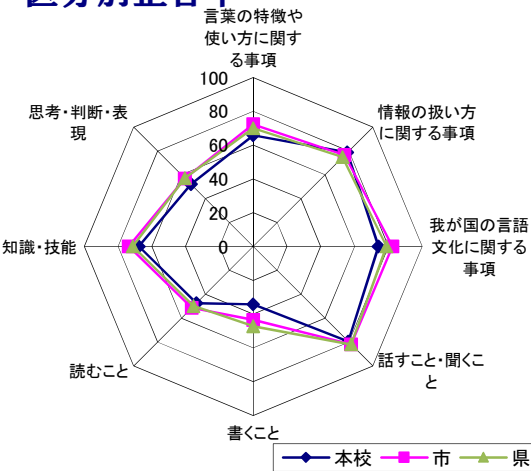
●「新聞を読んでいる」という質問では、肯定割合が2.4%と市の肯定割合よりも低い結果となった。さらに、毎日読んでいる児童は0%であった。近年、新聞をとらない家庭が増えてきているため、学校の授業などを通して児童が新聞に触れる機会を増やしていく。

●「次の教科の学習は好きですか」という質問では、国語、算数、社会、理科において肯定割合は市の肯定割合よりも低い結果となった。児童が学習が好きと感ずることができるよう、「わかる・できる」を実感することができる授業づくりに努めたい。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.8	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	78.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	74.2	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	79.5	81.9	82.0
	書くこと	34.3	43.5	47.2
	読むこと	47.5	51.4	49.8
観点	知識・技能	67.7	73.6	71.3
	思考・判断・表現	52.2	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

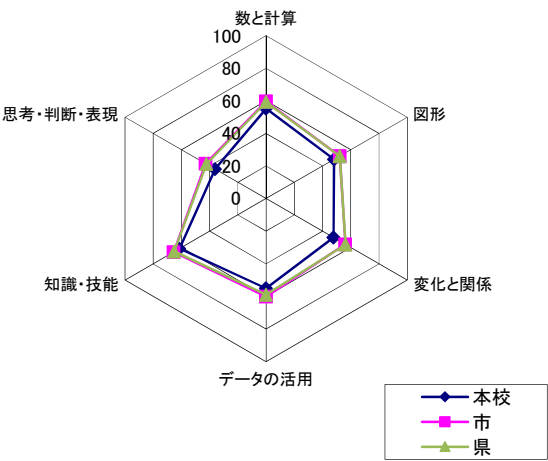
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○第4学年の漢字を読むことについての問題では9割近くの正答率で、定着していることがわかる。 ●様子を表す語を使う問題では、県の正答率と比べ7ポイント以上低い。	・修飾語などの語句について、国語の授業以外でも意図的に授業で取り上げて解説するなど、理解できるように工夫していく。 ・漢字の学習については、日々の家庭学習にも取り入れ、継続して指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	○漢字辞典の使い方を理解し、使う問題では、県の正答率と比べ3ポイント以上高い。	・漢字辞典について、常時活用できるように学習環境を整えるとともに授業内容を工夫するなど、使い方を理解し習得できるように継続して指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題では、県の正答率と比べ4ポイント以上低い。	・授業の中だけでなく宿題などを通してことわざについて取り上げたり、調べる時間を設けたりするなどの工夫をし、ことわざに親しむ機会を増やして、今後もより一層の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、8割以上の正答率で、聞く力が定着していることが分かる。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由に挙げながら話す問題では、県の正答率と比べ5ポイント以上低い。	・伝えたいことを整理し、聞き手に分かりやすく伝える工夫を実践できるよう、他教科とも関連付けて指導していく。 ・授業だけでなく朝の会のスピーチや学習活動全般において、自分の考えと比較して聞くことや発表者の意図に気を付けながら聞くことなど継続して指導していく。
書くこと	●県の正答率と比べ大きく下回っている。特に指定された長さの文章を書くことや、段落の役割を理解して文章を書くことに課題が見られる。無回答の児童が3割以上であり、記述式の問題に苦手意識をもつ児童が多い。	・書く活動を国語の授業だけでなく他教科や行事などとも関連付け、時間をしっかりと確保し目的意識をもって取り組むことで、抵抗を減らし、文章を書くことに慣れさせていく。 ・文章の構成について丁寧に繰り返し指導することで習熟を図っていく。
読むこと	○叙述を基に段落相互の関係を捉える問題では、県の正答率を9ポイント上回った。 ●登場人物の気持ちの変化について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像する問題では県の正答率を7ポイント以上下回った。	・説明文では、段落の関係や文章の構成について気を付けながら読んだり、要点をまとめたりする活動に丁寧に取り組んでいく。 ・物語文では、叙述に即して人物の心情や情景を正しく読み取れるように授業で丁寧に取り組んでいくとともに、それらを基に自分の考えをまとめていく活動を取り入れていくようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.3	59.7	59.2
	図形	48.1	52.1	52.1
	変化と関係	47.8	56.1	56.3
	データの活用	55.1	60.1	58.9
観点	知識・技能	61.4	65.5	65.1
	思考・判断・表現	36.2	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

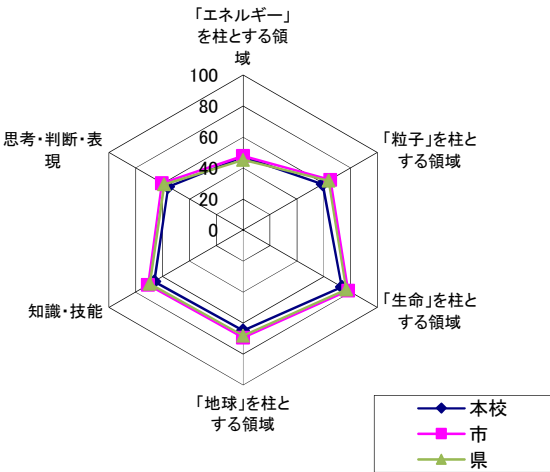
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○大きな数や小数のしくみについて答える問題では、どれも県の正答率を上回っている。 ●四則混合の式における計算の順序を確かめる問題では、県の正答率より13.5ポイント低い。 ●数直線や分数・小数を用いた問題については、県の正答率と比べて5～10ポイント低い。	・計算問題の正誤に着目するだけでなく、計算の仕方や問題の解き方にも焦点を合わせた机間指導を行う。 ・小数や分数の概念について振り返りの学習を行い、反復練習を行う。
図形	○三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題では、県の正答率を12.8ポイント上回っている。 ●複雑な図形の面積のもとめ方に関する問題では、県の正答率を17.3ポイント下回っている。 ●ひし形を作図する問題では、県の正答率より16.1ポイント低い。	・図形の面積を求める際に、問題の解き方に着目するだけでなく、考え方を式で表すことについても丁寧に指導する。 ・作図をする問題の無回答率が県の無回答率とおおよそ同じであることから、ひし形の定義が分からなかったと思われる。図形の定義を使いこなせるようになるよう繰り返し指導したい。
変化と関係	○数量の関係をとらえ、正しく表された図を選択する問題では、おおむね県の正答率と同じくらいであった。 ●全体的に県の正答率を下回っている。中でも、伴って変わる2つの数については、どの問題でも県の正答率をおおむね10ポイント低かった。	・表を使って数値の変化のきまりを見とることができるように、反復練習に取り組む。 ・基準量を求める際の立式の仕方について復習する。
データの活用	○2つの折れ線グラフに表されることを読み取る問題では、おおむね県の正答率と同じくらいである。 ●2つの折れ線グラフを正確に読み取る問題では、県の正答率を9.6ポイント下回っている。	・折れ線グラフを自分なりに読み取れることはできるが、同じグラフから異なった見方をすることはできないことが分かった。授業の中で意見交換などの時間を確保し、1つのグラフから様々な見方ができることに気付かせていきたい。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	47.2	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	59.2	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	73.5	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	64.9	69.5	68.1
観点	知識・技能	66.2	70.8	69.5
	思考・判断・表現	55.9	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○「電気のはたらき」に関する問題では、市と県の正答率よりも1ポイントほど上回っているという結果だった。乾電池のつなぎ方や名称、簡易検流計の使い方について基本的な知識が身に付いていると言える。 ●「電気のはたらき」の電流が大きくなる回路を選択する問題において、市の正答率よりも3.3ポイント低い結果となった。	・実験結果から考察し、自分の言葉で説明する活動を充実させる。 ・児童の疑問から授業を展開していくなどして、児童が理科の学習に興味関心をもって取り組むことができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	●「ものの温度と体積」に関する問題では、市の正答率よりも12ポイント低い結果となっている。水と空気をあたためたときの体積の変化についての理解が定着していないことが分かる。 ●すべての問題において市の平均と同様あるいは下回るという結果であった。 ●短答式・記述式問題で無回答の児童が11～20%の割合でいることが分かった。自分の言葉で説明することに課題が見られる。	・基本的な理科の用語については、定着が図れるよう、授業内で復習をしたり、確認テストなどを行ったりして、繰り返し指導をしていく。 ・授業のまとめにおいて、児童に穴埋めで言葉を入れさせたり、自分の言葉で書かせたりする活動を取り入れていく。また、無回答が多いことから、どのように書けばよいのかをなどの指導を行っていく必要がある。
「生命」を柱とする領域	○「ヒトの体のつくりと運動」に関する問題では、市の正答率を2.9ポイントほど上回っていた。 ●1年間の植物の成長に関する問題では、季節とサクラの木の様子を対応させる設問の正答率が市の正答率よりも13.9ポイント低い結果となった。	・動植物については、1年間継続して観察をしていき、1年間観察したものを掲示したり、まとめたりする活動を取り入れることで、変化の様子を児童が実感できるようにする。
「地球」を柱とする領域	●「月や星の動き」に関する問題では、全ての問題において市や県の正答率よりも低い結果となった。 ●「地面を流れる水のゆくえ」の学習において、水の流れと地面の傾きについて理解しているかどうかを確認する記述式の問題では、正答率が市の正答率よりも低く、無回答率が19.1%と高い割合となっている。	・身の回りの事象については、実際に観察や実験を行ったりすることで、児童の興味関心を高め、理解を深めていくことができるようにする。 ・各単元後にまとめノートを作成したり、復習プリントで繰り返し復習をしたりする。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」という質問では、肯定割合が市と比べて1.5ポイント、県と比べて2.5ポイント上回った。この回答から宿題をしっかりと行うことができていると分かる。

○「学習で身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問では、肯定割合が県の回答と比べて、7.3ポイント上回った。このことから学習の必要性を感じていることが分かる。

●「家で、学校の授業の復習をしている」という質問では、肯定割合が市や県の肯定割合よりも10ポイント以上低かった。また、復習していないと回答する児童が19.3%と高かった。授業の復習は学習の定着の基となるため、その日の学習をその日のうちに復習する習慣をつくっていききたい。

●「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問では、平日では「30分以上、1時間より少ない」、休日では「1時間より少ない」という回答が最も多く、家庭での学習時間が市の割合よりも低いのが現状である。また、「普段1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを観たり、聞いたりしますか」という設問では、「4時間以上」「2時間以上3時間以内」と回答した児童が最も多く、「普段1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という設問では、「2時間以上3時間以内」と回答した児童が最も多かった。テレビ・ゲーム等の使用時間については、市よりも高いのが現状である。このことから、家庭学習の時間が少なくなり、テレビ・ゲームの時間が長くなってしまっていることが考えられる。宿題だけでなく自主学習を推奨したり、テレビやゲームの時間の再確認を呼び掛けたりして家庭と連携して取り組んでいきたい。児童自身にも、時間の使い方について考えることができるようにしたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という質問では、難しいと答えた児童が、市や県の回答と比べると10ポイント以上高い、また、「友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意」という質問では、得意と答えた児童が、市や県の回答と比べると10ポイント以上低い。このような結果から、自分の考えを表現する機会を増やしたり、自信をもって発言ができるように発表の仕方を示したりするなど、自分の考えを表現する大切さに気付くことができるようにしたい。また、「授業を集中して受けている」という質問では、市と比べて7ポイント下回った。より主体的に授業に参加できるように支援していききたい。

●「家の人は、あなたが褒めてもらいたいことを褒めてくれる」という質問では、肯定的回答が市の回答よりも5ポイント以上下回った。このようなことから学習と結びつけると、発表できた喜びや意見をしっかりとめられたことを学年だより等に掲載して、家庭でも学習の様子を共有し、子どもたちにも話してもらえることで、子どもたちの学習意欲を高めていきたい。

●国語や算数、社会で「自分の分からないものを調べる」というような質問に対して、本校児童は、市と比べて、5ポイント下回っている。自分で調べたいと思うような授業展開や子どもたち自身も分からないものは自分で調べる方法を指導していく必要がある。

宇都宮市立横川西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学びを実感できる授業づくり	・1時間ごと、また単元を通した学習課題やめあてを明確に示し、見通しをもたせるとともに、めあてに沿った学習のまとめと振り返りを行う。	・算数の授業の理解度に関する質問では肯定割合は8割以上、算数の授業は大切だと思うかに関する質問では、肯定割合は9割以上であり、算数の授業改善の効果が表れていると考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合が4年生は15ポイント以上、5年生は10ポイント以上県の平均よりも低かった。	・学習習慣の確立	・家庭学習の内容について、学年に応じて適切な内容かを吟味する。 ・自主学習の意義ややり方についての指導を行うとともに、保護者に対しても家庭学習の啓発を行う。